

そうさく
惣作遺跡

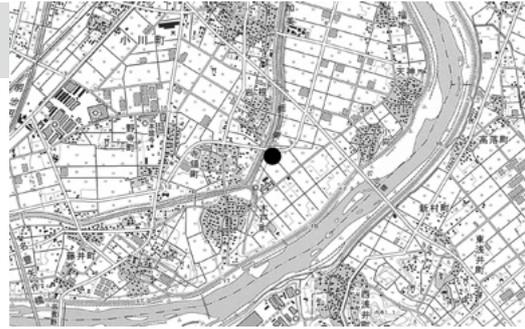
所在地 安城市木戸町
(北緯34度53分59秒 東経137度05分38秒)

調査理由 床上浸水対策特別緊急事業(鹿乗川)

調査期間 平成24年11月～平成24年12月

調査面積 330㎡

担当者 酒井俊彦



調査地点(1/2.5万「西尾」)

調査の経過 本調査は鹿乗川改修工事により床上浸水対策特別緊急事業にともなう調査として愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて本センターが委託を受け実施した。昨年度は本調査区の北側2,200㎡を調査し、古代の竪穴住居6棟等を検出した。主な遺物としては、古墳時代から古代の遺物が出土した。この調査で調査区南端に旧河道が検出され、湿地性堆積物から古代の木製品が出土した。このため調査範囲南側に遺物包含層が存在する事が予想され、今回の調査に至った。

立地と環境 本遺跡は矢作川下流域左岸の現鹿乗川に沿う沖積地に立地し、旧河川が形成した微高地上に所在する。遺跡南端に古代以前の旧河道が東西に走り、この南岸の自然堤防上も遺跡範囲となる。遺跡西側は現鹿乗川が南北に走り、この西岸は碧海台地の東辺にあたる。東側は鹿乗川に平行する用水路で、これを挟んだ東側にも本遺跡は展開する。これまでの調査により、弥生時代、古墳時代、古代の集落等が確認されている。今年度の調査区は鹿乗川と水路に挟まれた区域で、南北に伸びる二つの堤防の間に設定された。遺跡の現地表が標高約8m、遺跡の主要検出部分は標高6～6.5mである。旧河道の調査最深部で標高4.5mとなった。

調査の概要 今回の調査の区域は東西に走る旧河道の南半分から南岸の自然堤防の頂部に相当する。遺構は2面あり、上面は現表土の洪水性堆積層である粗砂層下の青灰色シルト層面で標高7m、下面は旧河道自然堤防の白色シルト・細砂層面で同6～6.5mである。また、自然河道の湿地性堆積層の掘り下げを行った。

上面では、近世の土坑2基を検出した。大形方形土坑の細礫を主体とする埋土中より、19世紀前半の土師器、瀬戸窯産施釉陶器、磁器が出土した。この面から掘り込まれた溝が下面の旧河道の埋土上面で検出された。溝は自然堤防に平行して東西に走り、横断する杭列と依状のものによって構築された堰が検出された。溝は検出面から深さ約0.8m、上面からは深さ1.9mを測る。土坑と同時期と考える。

下面では自然堤防上の基盤層面で整地層が確認された。10cmの層厚でシルトを主体とするブロック状でしまった土層である。須恵器片がわずか出土している。遺構としては土坑、溝が検出された。自然河道の埋土は上層が灰色シルト、中層が黒褐色腐植質土、下層が白色砂質土である。中層の湿地性堆積土より木製品および加工痕のある自然木が出土した。主なものでは板材、表面を削った丸太材などが検出された。その他の遺物として、上層から古代の瓦、中層から須恵器が少量出土した。出土遺物から土坑及び溝は古墳時代後半から奈良時代、自然河道の埋積時期は奈良時代以降と考える。

まとめ 今後、遺跡の形成に関してボーリング調査など地質学的調査の分析成果を含めて検討を行う事が課題となる。(酒井俊彦)



近世 溝



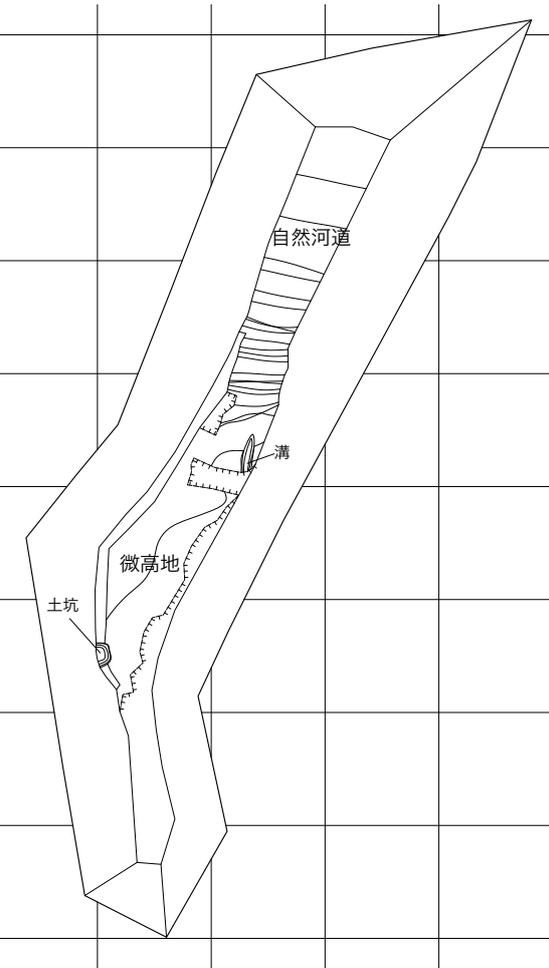
木製品 出土状況



古代 木製品



調査区 北半



調査区全体図 (下面)



調査区 南半